



郵便  
**報知新聞**  
 第五頁十九号

本郷春木町ある經師屋安次郎の養女をんお  
 同職喜三郎とける者と駕かとり老行末と  
 樂に些喜三郎ハ生得慳貪はて常に舅  
 姑の意を忤ひ妻あんと朝夕喧嘩のそあ  
 され振るく十田の手切金と遺一荷  
 物残ら引引きて其家と出せし喜喜  
 未煉もあん女お執心ゆに二月十日の  
 夜其家の寐静と窺ひ忍び入て用意の  
 九寸五分と以て仰向ふ臥るあん口中  
 より領一弁と刺透せし阿と下声  
 叫びもあん其依息の絶るが此物音  
 に目醒る老父踢起さぬに曲者と引組で  
 押伏せると同ふ妻も声揚呼りつゝ  
 巡査も速に馳来り早くも繩をけり  
 とら

真喜郎演栗記



錦屋堂

大橋  
 彫

彫

